



提供：京都大学

会員の皆様からの お祝いメッセージ

会員の皆様やゆかりの方から寄せられたお祝いのメッセージの一部をお届けします^{*}。また、2014年8月号巻頭言から北川先生のお祝いメッセージを特別再掲します。皆様からのお祝いメッセージや北川先生が本誌や本会ジャーナルにご寄稿いただいた記事は、本会ホームページの特設ページで期間限定でご覧いただけます。

※誌面の都合により、すべてのメッセージをご紹介することができませんこと、ご理解賜りますようお願い申し上げます。

<https://www.chemistry.or.jp/news/information/post-578.html>

<https://www.chemistry.or.jp/news/information/post-579.html>

北川さん、ノーベル化学賞のご受賞、おめでとうございます。錯体化学の新たな潮流を作られたこと、素晴らしい成果です。同年代の友人として大変誇らしく思います。北川さんの飾ることない、実直なお人柄に多くの科学者が触発され研究を続けています。これからもますますのご発展をお祈りします。

川合眞紀（日本化学会元会長・自然科学研究機構）

Congratulations on the Nobel Prize! You are truly the Father of MOF! It was a pleasure meeting you at EuroMOF 2025. Your talk inspired me greatly and has significantly shaped my perspective. You are a role model for all young scholars. Kunyi Leng (The University of Tokyo)

発表の直前からライブ（Youtube）で見えていました。先生のお顔の写真とお名前が呼ばれたときは本当に興奮しました。誠にありがとうございます。

内藤俊雄（愛媛大学）

北川 進先生、ノーベル化学賞のご受賞誠にありがとうございます。北川先生が生み出された PCP/MOF が、世界を驚かせる独創的な成果として極めて高く評価されたことを心よりお慶び申し上げます。今後も、北川先生のご研究が、北川先生が育てられた優秀な若手研究者とともにますます発展することにより、PCP/MOF が様々な分野で世界に変革をもたらすことを祈念しております。さらに、北川先生のノーベル賞受賞を契機に、化学を目指す小中高生がますます増えることを期待しております。

馬場嘉信（日本化学会筆頭副会長・量子科学技術研究開発機構）

ノーベル化学賞のご受賞、誠にありがとうございます。日本化学会名誉会員としてのご研究が世界的に高く評価されたことは、学会にとっても大きな榮譽であり、深く敬意を表します。先生の卓越したご業績が、今後の化学の発展にさらなる道を拓くことを確信しております。引き続きのご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

鳳城 延佳（日本化学会副会長・出光興産）

北川先生は人類の未来に大きな影響をもたらす革新的な研究成果をあげられました。これまで、北川先生の研究に触発された様々な材料研究が世界で行われてきました。現在でも私たちの研究所（WPI-iCeMS）で研究を続けておられる現役研究者です。お人柄も実直かつ気さくで、若い科学者のモデルであり続けるでしょう。祝杯をあげすぎて吞みすぎないようにご注意ください。上杉志成（京都大学）

京都大学・北川進特別教授のノーベル化学賞受賞を心よりお祝い申し上げます。北川教授には長年にわたり当社装置をご活用いただき、9月にはiCeMSとの協定を締結するなど深いご縁があります。今回の受賞は、物質の構造を解き明かす技術の重要性をあらためて示すものであり、日本発の材料科学研究の世界的評価を大変誇りに思います。

川上潤（リガク・ホールディングス 代表取締役社長 CEO）

化学最高峰のご受賞、おめでとうございます。多くの化学者が、先生のご業績とお人柄に感動を覚えていることと思います。我々化学者の誇りです。

菅裕明（日本化学会前会長・東京大学）

元国武研（九大時代）のとき、自己組織化した金属錯体として二分膜金属錯体をやっていた石川です。先生と何度かお話させていただきました。先生のライフワークの金属錯体ネットワークを眺めておりましたが、世界的に価値と功績を認めてもらって本当によかったと思います。おめでとうございます。

石川雄一

ノーベル化学賞のご受賞、誠にありがとうございます。私は助教（助手）に着任して間もなく、先生が領域代表を務めておられた特定領域研究「配位空間」に公募班として採択いただき、異分野から多孔性金属錯体の研究に取り組み始めた私にとって、研究者としての礎を築く貴重な機会となりました。先生のますますのご研究のご発展とご健勝を心よりお祈り申し上げます。内田さやか（東京大学）

このたびはノーベル賞受賞誠にありがとうございます。先生が近畿大学に在籍されていた頃、NMRを用いた金属錯体の研究会でお会いしていたことを思い出します。私はその後も金属錯体を含む超分子溶液系を研究対象にして研究生活を終えましたが、先生が固体系に対象を移されていったのがその後の発展に繋がったものと、先生のスケールの大きさを感じます。飯田雅康（奈良女子大学名誉教授）

ノーベル化学賞の受賞を心からお祝い申し上げます。弊社の分析装置が新材料の機能解明など、北川先生のご研究の一助になっていることを大変嬉しく思っております。今後も北川先生のご指導をいただきながら、革新的な構造解析技術の社会実装に向けて取り組んでいきます。

大井 泉（日本電子 代表取締役社長兼 CEO）

このたびは、ノーベル化学賞ご受賞、誠にありがとうございます。心よりお祝い申し上げます。北川先生が錯体化学会の会長であられたとき、副会長および事務局長として一緒にさせていただきました。私にとってかけがえない思い出です。これからもますますお元気で活躍されることを祈っております。

伊東 忍（大阪大学）

進先生 おめでとうございます。画期的な多孔性材料の設計コンセプトですのでノーベル賞に値する研究成果と確信しておりましたが、ようやくの朗報に我がことのように喜んでます。2009年にNEDOのGSCプロジェクトに参加して、北川進先生、宏先生とともに実用化に向けた取り組みを国家プロジェクトとしてスタートすることができたことは弊社と自身にとって最高の栄誉となりました。今後ともご指導の程、よろしくお願い申し上げます。

辻 勝行（レゾナック）

このたびのご受賞誠にありがとうございます。昨年3月に東京で開催されたコロイド界面のセミナーで先生の講演を拝聴した際にもMOFのさらなる可能性を感じ取ることができました。これを機に日本のガス吸着材料に関する研究がますます発展することを願ってやみません。ビジョンが大事との先生のお言葉、研究者にとって普遍的な点だと思います。私自身もMOFとは異なる視点から引き続き吸着材料の開発に取り組む所存です。大久保貴広（岡山大学）

北川先生、このたびは受賞おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。学生時代からセミナーや学会でお目にかかるたびに優しくお声がけいただいたことを思い出します。また学会などでお目にかかることを楽しみにしています。杉森保（富山大学）

受賞、おめでとうございます！中高の教員です。子どもたちは、このニュースに接して、とても励みになると思います。今の若い世代に期待したいですね。

ノーベル賞のご受賞おめでとうございます！ 僕は、中高生会員の高校1年生です。インターネットで会見を拝聴し、先生の高潔なお人柄に憧れるとともに、僕たち若者に向けて下さる暖かな眼差しにも感動しました。環境の重要性についてのお話は、身を乗り出して伺いました。僕も科学の力を信じて、さらに邁進する勇気をいただきました！！僕は、中高生会員であることを誇りに思い、各種イベントなどにも積極的に参加させていただいておりますが、残念ながら会員数は多くありません。お祝いの席でのお願いとなってしまう恐縮ですが、いつか僕たちの環境の活性化として、中高生会員数増加のために先生のお力添えもいただけたら幸いです！

北川先生、受賞おめでとうございます。先生の金属有機構造体分野における貢献がカーボンニュートラルだけでなく、地球環境と人間生活の貢献にますます活用されることを願っています。

科研費特定領域「配位空間」で北川進先生のご研究へのアプローチと、その発見に至るまっすぐなこだわりを学びました。そのときから今回のノーベル化学賞受賞に至るまで、毎年、北川先生の受賞を楽しみにしておりました。ついにご受賞された！ やったー！ という思いでいっぱいです。改めて、ノーベル化学賞ご受賞おめでとうございます！！！！ 今後ますますお忙しくなれると思いますが、引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。長谷川美貴（青山学院大学）

北川進先生。ノーベル化学賞のご受賞、心よりお慶び申し上げます。桂キャンパスのA4棟の廊下で北川先生にお会いするたびに、「空の穴が大事なんです！」と力説していたことを思い出します。その意味がわからなかった私は「無用の用」がわからない人だったのだと痛感しています。

感動を呼ぶサイエンス

陸上、体操、水泳、ウィンタースポーツ等の競技ではオリンピックや世界選手権などの世界的な大会で日本人選手がメダルを獲得すると、国民は文句なしに感動する。一方、サイエンスの成果に対してこのようなことがあるだろうか？ 数学では360年誰もできなかったフェルマーの最終定理がワイルズにより証明されると中身は一切理解できないのに私たちは感動する。天文学においては宇宙の始まりについて新たな学説が現れそれが証明されると間違いなく感動する。ましてや日本人がこの偉業を成し遂げるとさらに増幅される。これらは自然のヴェールを剥ぐことで、自然に対する私たちのロマンがかき立てられることによるのであろう。一般に、サイエンスの分野では、発見（discovery）が行われる。その発見が素晴らしいと我々は、驚き（wonder）、興奮する。その驚きが予想できないほど大きいものであると感動（passion）をうむ。化学においてこのような感動の源泉はいかなるものであろうか？

Richard Feynman は “If I cannot create, I do not understand” と述べている。「本当に理解したものはつくれるはずだ。つくれないならば、本当に理解していない。つまり、理解したかどうかを創造することによって検証できる」。化学者は物質をつくることのできるだけに物質についての理解をすすめるために我々の役割は大いに重要である。現在は分子そのものだけでなく、分子の集合構造、機能の制御が行われ、今や、複雑な物質だけでなく細胞でさえもつくられようとしている。細胞は数多くの化学物質が相互作用により自己組織化し、協同的に機能することで生

命活動を維持していると考えられる。そこには、化学物質の絶え間ない時空間的なダイナミクスが存在している。ナノメートル領域という狭い領域で働く分子に着目するだけでなく、もう少し大きな領域の集団に目を向けることが必要である。このマクロとナノ領域の中間の視点（メゾスコピックな視点）の対象は数十～数百 nm 程度の領域（メゾスコピック領域）であり、生命と物質の境界と考えられる。この境界領域を探究すれば、細胞の生命活動を物質化学として理解することができ、最終的に物質で生命活動を再現できるのではないだろうか。一方、無生物の材料の世界においてもメゾスコピック領域は、分子、イオンの集団による非線形で協同的な現象を持つ機能の宝庫と考えられる。今まさにメゾスコピック化学とも呼べる新しい化学の発信が必要である。

このように考えると化学の役割は、すぐに人間社会に役立つ物をつくるだけではなく、自然のヴェールを剥がすことも意味あるのではないだろうか？ それがもとになり大きく化学が発展、私たちの未来、子孫に関わる、資源、エネルギー、環境の諸問題が解決に導かれる学問が見いだされる。これを日本の研究者が成し遂げることは感動を生まないだろうか？ なによりも戦後から築いてきた日本のサイエンスブランドを是非とも維持、発展させたいものである。経済優先で目先の問題に目を向けるのは確かに重要だろうが、サイエンスとしての化学の人類の自然観への貢献、私たち、特に若い世代のロマンと興味を引き出し、感動を生むサイエンスの輪を広げる長期的な未来への努力を怠ってはならないと思う。（化学と工業 67 巻 8 月号より再掲）